

クラス	302	担当教員	遠藤 由美
テーマ	子どもとおとなが育つ教育福祉		
著書・論文 研究課題等	研究課題：教育福祉問題研究 著書・論文等：遠藤編著『「そだちあい」のための社会的養護』（ミネルヴァ書房、2022年）、「教育福祉と社会的養護」『吉田恒雄先生古稀記念論文集 子ども虐待の克服をめざして』（尚学社、2022年）、「教育と福祉の権利の展開」『子どもの権利研究』7号、『児童養護と養育研半世紀の歩み』などに論文掲載		
ゼミナール概要			
キーワード：教育福祉、そだちあい、子どもの権利保障、生活づくりと関係づくり			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>私は、学生時代、児童養護施設の子どもたちが高校進学したくても、経済的な理由や施設の条件などから学べない実態に出会いました。中卒で就職せざるを得なかった人の中には、転職を繰り返し、施設から連絡が取れなくなった人がいました。学びたい子どもたちが学べる条件づくりが求められていると思い、児童養護施設の保育士さんや児童指導員さんたちと研究会活動をするようになりました。</p> <p>研究運動の中で、子どもたちを取り巻く条件が前進した面もありますが、未だに課題は山積みです。家族の貧困、子どもの貧困、実践の貧困、制度の貧困が問題です。私にとっては、社会的養護の中で生きる人たちが学びを深め、生活を切り拓いていけるような条件を考えて作っていくことがライフワークになりました。</p> <p>今、これまでの経験を踏まえ、子どもとおとなが共にそだちあう存在ととらえ、子どもが育つためにおとなができること、おとな同士の関係形成、子どもとの関わりを通しておとなが学ぶことに注目しています。</p> <p>社会的養護の分野では、子どもたちが施設入所や里親委託によって生まれ育った地域から切り離されるのではなく、家庭や家族に自分たちだけでは解決できない問題が深刻化する前に、地域のさまざまな資源を利用して家庭や家族、友だちから切り離されることなく、育っていけるような条件づくりが求められています。そのためには、乳児院や児童養護施設等児童福祉施設のあり方だけでなく、保育所や幼稚園での日常的な子ども・家族との関わりが重要になってきています。</p> <p>これらのことから、2023年度の遠藤ゼミの活動は、以下のように取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 乳児院や児童養護施設等への見学と実践参加（ボランティア・アルバイトなど） (2) 保育所への定期的な保育参加による子どもの育ちの検討 (3) 社会的養護に関わる文献検討（遠藤編『「そだちあい」のための社会的養護』、石塚かおる編『子どものニーズをみつめる児童養護施設のあゆみ』等） (4) 児童相談所エントランスを飾る四季折々の展示作品づくりによる現場とのつながり (5) 現場職員との研究会での学習（全国児童養護問題研究会、遠藤ゼミ卒業生との「教育福祉問題研究会」）で学ぶ。保育所・乳児院・児童養護施設等で子どもとおとなが育つということの理解を深めることがゼミ活動の目標です。 			
担当教員からのメッセージ			
<p>ゼミでは、自前のことばで考え、表現すること、ゼミメンバーと協力して課題に取り組むこと、現実から学ぶことを大切にします。他者の意見は大切に、学んだり参考にしたりすることは大いにやってほしいことですが、そのまま「うのみ」にすることは避けたいものです。自分なりに他の意見や説をどうとらえて行くのか、自分がどう感じるのか、考えるのかを大切に、表現してください。</p> <p>せっかく福祉大の教育・心理学部にやってきて、遠藤ゼミを選択するならば、教育福祉を学んでください。講義「教育福祉論」の受講に加えて、ゼミ活動で考えあうことを楽しみにしています。合宿や研究会参加もするので、お金もかかります。準備しておいてください。全国児童養護問題研究会全国大会は、来年度大阪大会を予定しています。施設実習と重ならない限り、そこに参加して学ぶことを求めます。</p>			